



REPORT 2018

2017.04~2018.03

特定非営利活動法人 OWS

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-13 シャトレー代々木704



鳥島アホドリ
「5,165羽」到達！
おめでとうございます

沿革

1998年 11月●OWS創立総会開催 渋谷区恵比寿に事務局を設置
 1999年 02月●北西ハワイ諸島ミッドウェー環礁に現地事務所設置
 06月●ミクロネシア・パラオに現地事務所設置
 09月●東京都NPO法人の認証取得
 2000年 02月●各種会員の募集開始
 03月●会報「季刊エブオブ」創刊
 08月●公式ホームページ開設
 2001年 02月●OWS会長にジャック・T・モイヤー氏、副会長に倉田洋二氏
 就任
 06月●「ネイチャースクール(自然体験プログラム)」開始
 2002年 01月●「OWSネイチャーガイド養成コース」開始
 04月●「アンガウル州立自然公園プロジェクト」開始
 09月●事務局を目黒区下目黒に移転
 10月●「海のセミナー」開始
 2003年 06月●「水中ゴミ調査」開始
 09月●アンガウル州立自然公園ビジターセンターオープン
 11月●「海のトークセッション」開始
 2004年 01月●ジャック・T・モイヤー会長逝去
 05月●長谷川博氏(東邦大学理学部教授)、OWS会長就任
 06月●「海辺の自然教室」開始
 2005年 09月●インド洋クリスマス島においてボランティアプログラム開始
 10月●事務局を豊島区雑司が谷に移転

2006年 01月●メンバーによる各活動の実行委員会を設置、運営開始
 2007年 07月●「OWS 5人の写真展(巡回写真展)」開始
 2008年 03月●「北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト」開始
 05月●「砂浜海岸生物調査」開始
 2009年 08月●「北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト」探索調査開始
 09月●「ネイチャースクール 日帰りプログラム」開始
 2010年 03月●「造礁サンゴフィールド図鑑～伊豆・三浦・房総編発行
 05月●「海辺のナチュラリスト講座」開始
 2011年 04月●東日本大震災 被災地支援活動開始
 06月●ミッドウェー環礁調査ツアー実施
 2012年 06月●「江奈湾干潟保全活動」開始
 06月●「未来に残したい海」プロジェクト・自然観察&カメラ教室開始
 12月●子どもフォトコンテスト開始
 2013年 04月●江奈湾・昆沙門湾干潟生物調査開始00
 07月●海洋ゴミ企画展開始
 11月●事務局を渋谷区千駄ヶ谷に移転
 2015年 04月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での造礁
 サンゴモニタリング調査 開始・新「サンゴ調査プロジェクト」開始
 2017年 10月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での魚類調査
 開始

組織概要

名称	OWS(オーダブリュエス) (OWSという名称は The Oceanic Wildlife Society (英語表記) の頭文字からとられたものです)		
所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-13 シャトレー代々木704 TEL: 03-6432-9917 FAX: 03-5960-3546 URL: http://www.ows-npo.org/ E-mail: info@ows-npo.org		
目的	OWSは、国内外の海洋域における自然環境及び生物とその生態系について、科学的な調査及び研究を行い、その結果得られた情報及び成果の有用な活用とその自然環境の維持・保全を目的とした活動をもって、地域社会に貢献するとともに、環境保護意識の普及を図ることを目的とする。		
役員	会長 副会長	長谷川 博 倉田 洋二	東邦大学理学部名誉教授 元小笠原水産センター所長
	代表理事 副代表理事 理事 理事 理事 理事	横山 耕作 高砂 淳二 森 紀子 宮川 貴子 杉森 雄幸 池上 喜代壺	
	監査役	吉岡 宏治	
	学術顧問 法律顧問	秋山 章男 矢田 誠	元東邦大学理学部教授 新麻布法律事務所 弁護士

2017年度の活動実績

事業名	事業内容	実施日	実施場所	支出額(円)
環境教育事業	海辺の自然教室の開催 ネイチャースクール(環境学習プログラム)の開催 海辺の漂着物を使ったクラフト教室の開催	5月 6～10月 7月	神奈川 東京 神奈川・東京	823,000
普及啓発事業	会報「季刊エブオブ」の発行 学習教材パネル(海洋ゴミの写真パネル)の貸出 環境をテーマとした写真展の開催 講演「海洋ゴミを考える」の開催 江奈湾干潟関連セミナーの開催(2回) 「未来に残したい海」子どもフォトコンテスト開催	年4回 随時 7～3月 7月 6月 7～12月	全国 全国 関東 関東 神奈川 全国	352,000
調査研究事業	造礁サンゴモニタリング調査(国立環境研究所連携) 造礁サンゴ探索調査 魚類調査(国立環境研究所連携)	10～3月 5～11月	全国 関東	4,827,000
環境保全 協力事業	江奈湾干潟保全活動(投棄ゴミ・漂着ゴミの回収処分・ 雑草刈り、ヨシ原管理等) 干潟生物市民調査、モニタリング調査 干潟ネットワーク調査(伊豆半島・下田) 江奈湾アマモ分布ドローン撮影調査	4～3月	関東	451,000

長谷川会長鳥島報告

2018年3～5月期 調査報告

●確認ヒナ数 688羽

(成功率約75%前提)

鳥島集団の総予測個体数

約5,165羽



50羽から

どうぶつ社

5000羽へ

アホウドリの完全復活をめざして



長谷川 博

かつて、彼らには

「悲しい物語」しかなかった。

白く美しい羽毛をもつゆえに乱獲された。

人を恐れることを知らず、

棒でたやすく殴り殺され、

「バカドリ」「アホウドリ」と呼ばれた。

羽をむしられ、すみ場所を奪われ、

絶滅の危機に立たされた。

「5,165羽」 到達！
おめでとうございます

ネイチャースクール



●オリンパス協働「未来に残したい海プロジェクト」 海辺の自然観察&カメラ教室+クラフト教室

- ①6/24 ネイチャースクール三浦(諸磯コース)
- ②7/08 ネイチャースクール三浦(城ヶ島コース)
- ③7/16 クラフト教室 (新宿:オリンパスプラザ)

※カメラ教室 : 子どもフォトコンテストに応募

※クラフト教室: 自然観察時に貝殻などの材料を採集

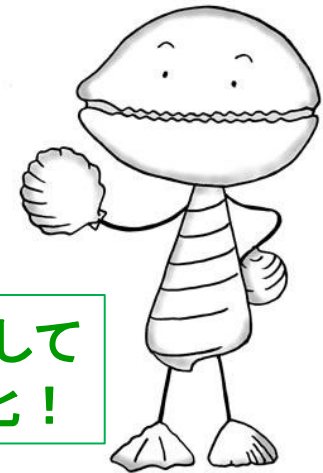
●港区立エコプラザの受託プログラム 海辺の自然観察

- ①07/01 ネイチャースクールお台場
- ②10/07 ネイチャースクール三浦(雨天プログラム)

開催回数: 5回 参加者数: 97名



会報「季刊 エブオブ」の発行



20周年を記念して
ついにカラー化！

- 4月20日発行(春号) Vol.65
特集:「スナメリ」
執筆:白木原美紀(東邦大学)
- 7月20日発行(夏号) Vol.66
特集:「海洋汚染の生体影響を海鳥で測る」
執筆:綿貫豊(北海道大学)
- 10月20日発行(秋号) Vol.67
特集:「本当に「怖い」サメの話」
執筆:シェリー・クラーク(WCPFC 太平洋マグロ類委員会)
- 1月20日発行(冬号) Vol.68
特集:「御蔵島のイルカウォッチングとエコツーリズム」
執筆:小木万布(御蔵島観光協会)



講演プログラム

● 活動に附随したセミナー(干潟保全活動・関連セミナー)

2月17日 海の生き物を守るシンポジウム2018

於: 中央区立環境情報センター

「江奈湾干潟の保全 ～OWSの取り組み～」を発表(横山)

主催: 海の生き物を守る会・日本自然保護協会・ラムサールネットワーク日本

● 参加者: 40名



海洋ゴミ問題に係る活動

● 企画展「海洋ゴミについて考えよう！」

① 7月1日～7月30日

展示会場：港区立エコプラザ

② 8月3日～8月30日

展示会場：板橋区立リサイクルセンター



● 環境学習用 写真パネルの貸出

① 6月～9月 横浜市立よこはま動物園

② 8月～9月 NPO法人 live together



第6回 子どもフォトコンテスト



●審査風景



●表彰式



●入賞作品展



●スライドトークショー



2017

造礁サンゴモニタリング調査

●造礁サンゴモニタリング調査

各調査の実施

- ①天草 10月
- ②五島 11月
- ③串本 11月
- ④田子 11月
- ⑤壱岐 11月
- ⑥対馬 11月
- ⑦坂田 12月
- ⑧沖ノ島 12月
- ⑨竜串 01月
- ⑩安良里 01月

参加者合計 57名(延べ)



2017

魚類調査

● 魚類調査(本格調査に向けたテスト調査)

- | | |
|------|-----|
| ①天草 | 10月 |
| ③串本 | 11月 |
| ④田子 | 11月 |
| ⑦坂田 | 12月 |
| ⑨竜串 | 01月 |
| ⑩安良里 | 01月 |

本年度は 6カ所でテスト的に実施



2017

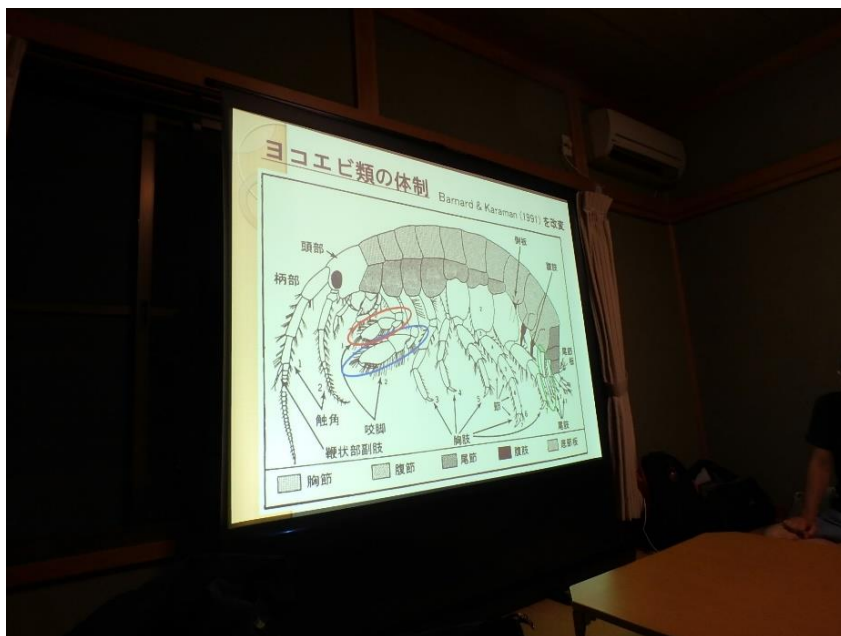
江奈湾干潟保全活動

● 干潟生物市民調査 参加者:2日間延27名

6月10日 江奈湾干潟 12名

6月11日 毘沙門湾干潟 15名

● ミニセミナー開催 (6月10日夜)



2017

江奈湾干潟でのゴミ回収量



6年間22回の回収

年度	回数	回収量
2012年度	3	1.307.8
2013年度	4	1.051.8
2014年度	6	652.4
2015年度	4	1.109.2
2016年度	3	485.7
2017年度	2	297.4
合計	22	4.904.3

4,904 kg

※放置ボート等を除く

江奈湾干潟保全活動

新たに見つかった
投棄現場

江奈湾干潟保全活動

2017年度調査で確認した種
西干潟:79種
東干潟:92種
全136種 内16種を追記

全271種
内RD種 35種

<助成・活動協賛>

【活動助成】

リコージャパン株式会社	江奈湾干潟保全活動
MS & ADゆにぞんスマイルクラブ	活動全般

【活動協賛・協力】

オリンパス株式会社
株式会社ラッシジャパン
スキューバプロアジア株式会社

<業務受託>

国立研究開発法人国立環境研究所 造礁サンゴモニタリング調査
港区立エコプラザ ネイチャースクール

<寄付・募金>

【寄付】 リコージャパン株式会社
株式会社東京マツシマ

<OWS法人賛助会員(スポンサー)> (五十音順)

高砂写真事務所
パラオ・スプラッシュ
株式会社ピククルスコーポレーション
株式会社フィットクルー
有限会社ロブ・クラシック

2018年度の活動予算

事業名	事業内容	実施日	実施場所	支出額(円)
環境教育事業	海辺の自然教室の開催 ネイチャースクール(環境学習プログラム)の開催 海辺の漂着物を使ったクラフト教室の開催	5月 6～10月 7月	神奈川 東京 神奈川・東京	852,000
普及啓発事業	会報「季刊エブオブ」の発行 学習教材パネル(海洋ゴミの写真パネル)の貸出 環境をテーマとした写真展の開催 講演「海洋ゴミを考える」の開催 江奈湾干潟関連セミナーの開催(2回) 「未来に残したい海」子どもフォトコンテスト開催	年4回 随時 7～3月 7月 6月 7～12月	全国 全国 関東 関東 神奈川 全国	541,000
調査研究事業	造礁サンゴモニタリング調査(国立環境研究所連携) 造礁サンゴ探索調査 魚類調査(国立環境研究所連携)	10～3月 5～11月	全国 関東	4,855,000
環境保全 協力事業	江奈湾干潟保全活動(投棄ゴミ・漂着ゴミの回収処分・ 雑草刈り、ヨシ原管理等) 干潟生物市民調査、モニタリング調査 干潟ネットワーク調査(伊豆半島・下田) 江奈湾アマモ分布ドローン撮影調査	4～3月	関東	18,000